

地域社会のことについては、 やれることをやればいいの

地域のことを知れば知るほど、何か関わった方がいいのかなと思いつつ、なかなか難しい若者世代。そんなジレンマを解消する、理想の関わり方とは？地域のイベントをより楽しむためのアドバイスも必読。

西連合町内会 会長代行 西田 秀夫 ×
rocketdesign 菊池 信悟

—今日は西地区のことや町内会について、いろいろと語って頂ければと思います。

西田(右):町内会には定年後などに参加する人がほとんどですが、自身の仕事のキャリアはあっても、地域コミュニティの中では新人なので、とまどうことが多いかも。地域コミュニティも組織ですから、マネジメントの知識は必要だと思いますよ。P.F.ドラッカーってご存知?彼の本を読むと面白いんだ。

菊池(左):名前は知っていますが、読んだことはないです。僕は西屯田通沿いに住んでおりますが、仕事をしているので、あまり町内会との接点がなく。自分と同年代で、町内会活動に熱心な知人が一人いるのですが、彼は珍しい存在。自分には今は難しいなと……

西田:それは、人によって性格や好みがありますから。若い人は仕事もありますし、地域社会のことについては、やれることをやればいいの。手が一杯のうちは、町内会費を払ってあげたいんですよ(笑)。

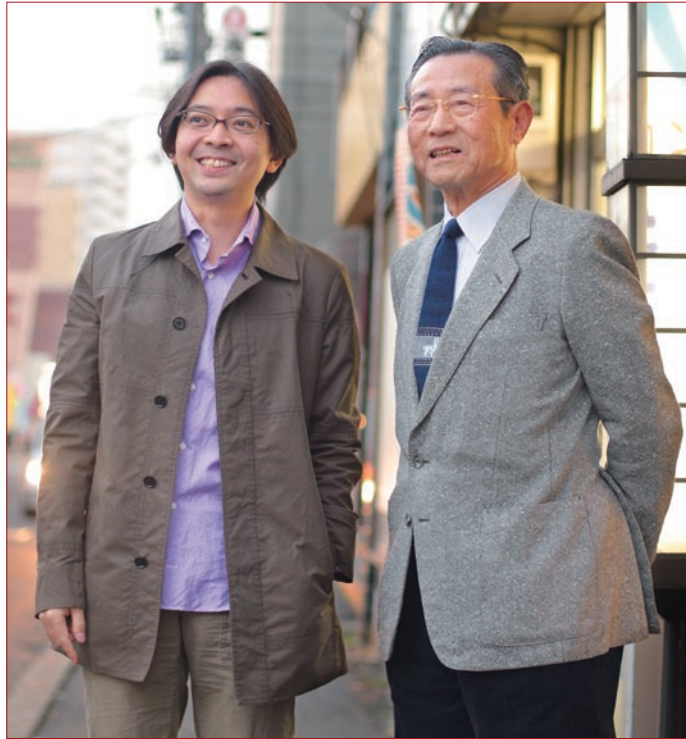
—お祭りなどのイベントには、普段町内会活動に参加されない方でも足を運びますね。

西田:組織活動をする場合の、潤滑油となるのがイベントで、人と触れ合う有効な機会です。知り合いがいなくても、外国人と話すくらいの気持ちで話しかけてごらん下さい。そうすると意外と楽しいですよ。

お問い合わせ先 ★ 西まちづくりセンター / TEL 011-561-7124

「20代~40代の方は気持ちだけ、50代、60代になってゆとりが出てきたら、町内会にも一歩歩み寄って」という会話が印象的でした。

※ここに掲載できなかった取材時のお話は以下のアドレスで聞くことができます。
http://www.sora43.jp/sound/machi/vol_75.mp3



菊池:お祭りって、地域の人に話しかける意識を持って行ったことがありませんでした。

西田:外国人と言えば、この地区の魅力は交通面の便利さに加えて、コミュニケーション上の刺激があるということも言えるでしょうね。留学生のためのマンションもありますし、外国人との接触が多い地域だと思います。

—最後にまちへの想いをお願いします。

菊池:個人商店の良さを見直している人は結構増えていると思うので、西屯田通にももう少し商店が増えればいいなあ。あとは、自分ももう少し歳をとって多少の時間ができた時に、何か町内会活動ができるようになっていけばいいのかなと。

西田:その日のために、ドラッカーの本でマネジメントを勉強しておくといいですよ。町内会の運営に役立つから。菊池さん、60歳になったら町内会長ですね(笑)。

幼児や低学年になると、 相撲というよりダンスです(笑)

9月9日は伏見稲荷神社例大祭。境内にある土俵で開催される子ども相撲大会は、40年以上も続く伝統行事だ。まわしを締める本格的な奉納相撲は、毎年大盛況。これはまさに、子どもと相撲への愛がなせる技?

幌西地区青少年育成委員会 会長
平池 信幸

—伏見稲荷神社に土俵があることを初めて知りました。

あの土俵は、昭和40年頃に地下鉄工事から出た土を使用して作られたそうです。立派でしょう?しっかりしているので、今もひび割れなどは全然ありません。子ども相撲大会は、事前に参加申し込みをするわけではないので、「来るかな、来るかな」とやきもきしながら準備しています。見物客が結構いらっしやるので、その辺はプレッシャーですね。それでも自主参加で、毎年50~70名くらいは集まります。遠くは盤溪から参加している子もいますし、中学に行っても参加してくれる子どももいて、ありがたいですね。いろいろな小学校の子どもが集まりますので、応援する側も学校対抗で熱が入るようです。

今の子どもたちにとって、相撲というのはあまり馴染みのないスポーツですから、幼児や低学年になると、相撲というよりダンスです(笑)。高学年の取り組みは、やっぱり迫力がありますね。子どもたちが日本の国技である相撲を見つめて、こういうのが相撲なんだと覚えていってくれればと思います。

—12年携わる中で印象に残っていることはありますか?

女子が男子を投げて優勝したときのことは、印象に残っています。高学年だと、女子の方がしっかりと腰を落としていて、上手だなと感じることがありますね。あと、この相撲大会出身で、伊勢の海親方にスカウトされた男の子もいるんですよ。毎年その子のお母さんが番付表を届けてくれていましたが、去年引退しました。

お問い合わせ先 ★ 幌西まちづくりセンター / TEL 011-561-3256

行司が見た目で勝ち負けを決める、ということを徹底しているので、物言いはないそうです。

※ここに掲載できなかった取材時のお話は以下のアドレスで聞くことができます。
http://www.sora43.jp/sound/machi/vol_78.mp3

—最後にまちへの想いをお願いします。

幌西地区は子どもたちのスポーツを通じた交流を、多く求めている地域だと思います。ここには17の町内会があって、昔はその全部に子ども会がありました。今は少し減りましたが、一つの連合町内会の中にある子ども会の数は、多い方だと思います。昔からの伝統というか、子どもに対してエネルギーを注ぐ地区ですね。子ども相撲大会も、若いお母さんがお子さんのおむつの上まわしをつけて、一所懸命写真を撮っているところなんかを見ると、継続していかないといけないと思います。これからも、子どもたちと遊びを通じて触れ合っていきたいですね。

